



第6回 山ノ荘エリア (ジオサイト)の見どころ

知って楽しむ! 筑波山地域ジオパーク



筑波山 地域 GEO PARK

空から見た山ノ荘エリア

筑波山地域ジオパークには、地形や地質の見どころが集まったエリア(ジオサイト)が26か所あります。今回はそのうちのひとつ、山ノ荘エリアを紹介します。

山ノ荘エリアとは

山ノ荘エリアは天の川上流部、筑波山塊を背にした東城寺、沢辺、小野、小高、大志戸、本郷、永井の7地区で構成されています。ハイキングコースが整備された通称小町山では、花崗岩や変成岩ホルンフェルスが産出し、変成岩の巨岩を観察することができます。

さらに、奈良時代から平安時代に流通した須恵器(焼き物)の登り窯が多数存在するほか、比叡山延暦寺を建てた最澄の弟子、最仙が開山したと伝えられる古刹東城寺や、関東地方では最古級の経塚で、県指定史跡の東城寺経塚群などの文化財が多数存在しています。

山ノ荘エリアでは、古代から連続と続く人と大地の関わりを学ぶことができます。

日枝神社流鏝馬祭とジオー

日枝神社で毎年4月の第一日曜日に行われている流鏝馬祭は、山ノ荘の平和と五穀豊穰を祈願する祭礼です。この流鏝馬は大猿退治

の伝説を儀式化したものです。流鏝馬祭に登場する「一つ物」と呼ばれる人身御供は、中世の祭礼に見られる稚児に起源があるといわれています。中世の祭礼を現在に伝える全国的にも珍しい流鏝馬として、県指定無形民俗文化財に指定されています。

この流鏝馬の馬場となる参道は、丘陵の裾から細長く伸びる微高地です。周囲の水田より高いこの地形は、12〜13万年前、関東平野全域が海であったところに形成された砂嘴(波で運ばれた砂が堆積してできた地形)である可能性が指摘されています。中世の姿を今に伝える祭礼の背景には、太古の地球の歴史があります。



日枝神社流鏝馬祭

本郷の花崗岩と石造物

山ノ荘エリアには五輪塔や石仏など、中世から近世に作られた石造物が多数存在しており、そのうち約半数は花崗岩製です。小高にある大型の石造五輪塔(県指定文化財)には、「功德主頭白上人 永正十二年二月三日 大工本郷」と銘が刻まれています。この石仏の銘の「本郷」とは、山ノ荘エリアの本郷地区を指すと考えられ、中世から良質な花崗岩の産地であったことが伺えます。現在では石材生産は行われていませんが、山ノ荘エリアに残る多数の石造物や石材採掘の痕跡は、人と大地の関わりを物語っています。



小高の五輪塔

もっと知りたい! という方へ

筑波山地域ジオパーク ホームページ

お問い合わせ

商工観光課 (☎826-1111 内線2705) 上高津貝塚ふるさと歴史の広場(☎826-7111)

